

沖縄独自の伝統文化、沖縄角力

沖縄の相撲は、「沖縄角力（すもう）」と書き、方言ではシマと呼ばれています。その歴史は、琉球王国時代に催事の余興として力比べが始まり、やがてそれが角力へと発展し、15世紀には沖縄角力は現在の形になりました。19世紀はじめに角力好きで名高い尚灝王の登場により、隆盛を極めたと言われています。



1973年10月9日 久米島全沖縄角力大会
所蔵:沖縄県公文書館

沖縄角力

本土の相撲とは異なる沖縄角力

本土の相撲では、力士がまわしを締めて相撲を取ります。しかし、沖縄角力では角力着（いわゆる柔道着）をつけ、紅白の帯と鉢巻を締めて戦います。



1973年10月9日 久米島全沖縄角力大会
所蔵:沖縄県公文書館

また、本土の相撲のような立ち合いはなく、両手で相手の帯をつかみ、右四つに組んだ状態から審判が背中をたたいたら始めの合図です。

勝負は5分間3本勝負で2本先取すれば勝利となります。相手の背中を土俵につければ「1本」。土俵の外に出た場合や、手が地面についた場合は「勝負なし」と判断されるため、本土の相撲のような「押し出し」などは存在しません。あくまでも、土俵の中で勝負をつけなければならないのが、沖縄角力の特徴でもあり、本土の相撲や柔道との違いです。

見て
みたいな

沖縄角力はどこで行われてる？

沖縄本島の祭りや公式戦など、年間約15～20回ほど大会が行われています。特に久米島では、沖縄角力が盛んです。また、沖縄県からの移住者の多い横浜市鶴見区などの県外や、ブラジルやアルゼンチンなどの海外でも盛んに大会が開催されています。機会があれば、是非観戦・参戦してみてはいかがですか？

挑戦して
みようかな

